

電子制御ブレーキシステム開発

地元の北海道に残ることを希望した両親の反対を押し切り、北海道を離れ、工学部を出たからには技術者として挑戦したいという一心で就職した先が、日産自動車だった。最初担当したのは、回生協調ブレーキシステムの開発だった。回生協調ブレーキとは、回生による制動と油圧ブレーキによる制動の割合を適切に調整する技術である。この時行ったのは開発用シミュレーターの製作。設計、試作、動作確認実験、全てが新しい経験だった。完成後、思い

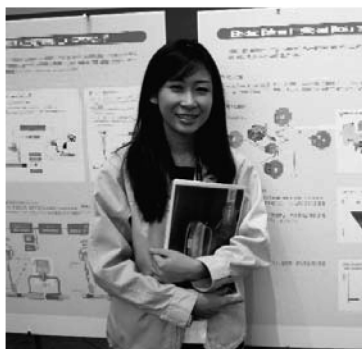
凛としていきる

# 理系女性の挑戦

## 技術開発にベストを尽くす

通り動作した時はとても感動した。今でも、自身が持つ課題を達成できた時、日々技術者としてのやりがいを感じている。

社内には女性社員は少なくないが、私が所属しているグループでは正社員と派遣社員を合わせてもまだ少ない方



回生協調ブレーキシステムのパネル説明

だ。その中で、後に続く女性社員に恥じないような技術者でありたい。そう意識しながら仕事をしてきた。

ある時、男性テストドライバーから、「やっぱり女性は運転が下手だな」と言われたことがあった。何気なしに出た言葉のようであったが、女性

は「そういう言葉が引かかった。社内には運転技量の資格試験がある。その保有ランクにより運転技量を持っていると誰からも認めてもらえる。その後運転を練習しランクアップ試験を受け、認められる運転ランク資格を取得した。自らの運転でテストコースに出る時、「無線を使用した時、無線から女性の声がある」と驚かれた。当時、女性が多かった。事務所に戻ると、多くの声から私の声を聞いたと声掛けしてもらった。今も自身が設計した技術は、なるべ

く車に乗り体感するよう心がけている。後に続く先輩が「やっぱり女性は」と言われないような職場環境に貢献できていれば幸いだ。

女性だからといって不便を感じたことはない。ただ、持病の悪化で最近車いすを使用する頻度が多くなった私には、足が不自由な事による不便は多くある。そんな中、いつも周囲のサポートを受け進めてもらった。それを理解してくれている上司、同僚には感謝している。引け目は常に感じる。だが、一人でできることには誰しも限界があるので、これからはできることをできる範囲でしっかりとやり、貢献して行きたい。

企画協力・日本女性技術者フォーラム（JWEF）  
（火曜日に掲載）

日産自動車 シヤシー開発部 ブレーキシステム開発グループ デュシエン 郁恵



プロフィール 2007年北海道大学大学院情報科学研究科修士課程修了。同年日産自動車入社。ABS/VDCユニット、ブレーキ制御機能の開発に従事。JWEF法人会員。